

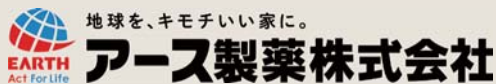
アース製薬株式会社

日本の業務品質を世界へ——
「インテック×mcframe」でグローバルIT戦略を支える

生活に密着した日用品を中心に事業をグローバルに展開するアース製薬。海外子会社を含むグループ全体のIT基盤の共通化を目指し、基幹システムの刷新を進めていた同社では、インテックが提案した東洋ビジネスエンジニアリング（以下、B-EN-G）の製造業向け業務パッケージ「mcframe」を導入、IT戦略の推進力として活用しています。



アース製薬本社ビル



PROFILE

社名：アース製薬株式会社
設立：1892年4月
本社：東京都千代田区神田司町2-12-1
資本金：33億7,760万円
従業員数：3,479名（連結・2016年12月時点）
代表者：代表取締役社長 川端克宜
URL：<http://www.earth-chem.co.jp/>

「地球を、キモチいい家に。」

1892年に創業したアース製薬株式会社（以下、アース製薬）は、家庭用殺虫剤市場において、市場シェア50%超を占める日用品のトップメーカーです。これまで“世にないものを創る”ことをモットーに、お客さまの視点に立ち、「ごきぶりホイホイ」「アースノーマット」「アースレッド」などに代表される独創的なヒット製品・ロングセラー製品を開発・育成してきました。ほかにも洗口液「モンダミン」、入浴剤「バスロマン」、衣類用防虫剤「ピレパラアース」といった一般に馴染みのある有名ブランドのヒット商品を次々と市場に送り出してきました。

2017年から経営理念とコーポレートロゴを一新。経営理念を「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」とし、グローバル展開推進のため、ロゴをカタカナ表記「アース」から英語表記「EARTH」に変更しました。ロゴデザインには経営理念を簡潔に英訳した「Act For Life」と、日本語の「地球を、

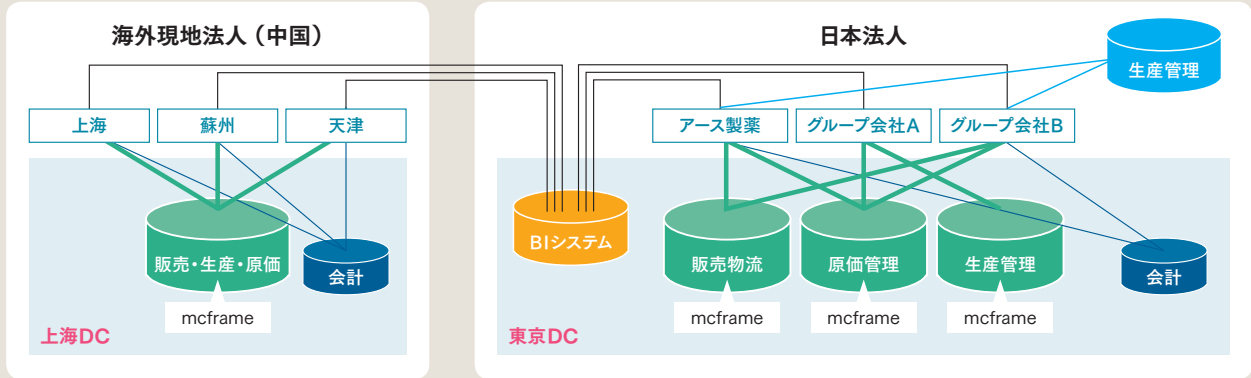
キモチいい家に。」というスローガンを添え、浸透を図っています。

豊富な実績からインテックをパートナーに

アース製薬のIT戦略は、中期経営計画の重点テーマである「海外展開の強化」「グループシナジーの最大化」「収益力の向上」の実現を支援すること。IT部門の果たすべき役割は大きいと感じています。

そのIT戦略の一環として、アース製薬は長年使用してきた基幹業務システムを刷新、グローバル共通のIT基盤の構築を目指しました。まずは、本社の基幹業務システムのITインフラをメインフレームからオープン系のシステムに切り替え、併せてERPパッケージの導入に踏み切りました。この方針のもと、生産・販売・原価パッケージを探していたタイミングで提案に訪れたのがインテック社でした。提案の内容は、B-EN-Gの国産ERPパッケージ「mcframe」の導入でした。その提案を受け、mcframeのしくみや機能を詳細に評価・検討した結果、アース製薬が長年利用してきた原価計算・原価管理を実現できることが決め手になり、導入を決定しました。

もともとアース製薬は、日用品業界各社とインテック社の共同出資によって発足した業界標準VANサービス「プラネットEDIサービス」を利用して、インテック社のことは



以前から知っていました。アース製薬のニーズをインテック社に伝えたところ、mcframe導入の豊富な実績^{*1}があることが分かり、パートナーとして選びました。

業務の見える化と標準化、ガバナンスが進展

mcframeの導入は販売物流システムからスタートし、次に原価管理システムへの移行に着手しました。その際、国内グループ会社の原価管理のしくみが同一基準で計算されていない課題もクリアすることになり、アース製薬の原価管理システムの計算基準をベースとして、2016年1月に3社同時にmcframe原価管理を稼働させました。

一方、現地で独自にシステムを構築・運用していた海外子会社でもmcframeを導入しようという動きが同時並行で始まっていました。



写真左から、アース製薬株式会社 情報システム部 染谷 英彦係長、丸山 公剛課長補佐、門家 真一次長、澤田 博課長補佐、梶 晃部長

2016年には中国の上海と天津の拠点に導入、2017年1月からは中国・蘇州の拠点でも運用が始まりました。

本社、グループ会社、そして海外拠点にmcframeを導入したことで全体の数字がリアルタイムで把握できるようになり、併せて、業務プロセスの見える化と標準化、ガバナンスが進展しました。とりわけ海外拠点ではこれまで業務プロセスが属人化され、不透明な部分が多くありましたが、今日ではそうした属人化・不透明性が排除され、業務品質を高いレベルで保つことが可能になりました。加えて、帳票類のペーパーレス化が進むなどの効果も得られています。

今回のmcframe導入に合わせ、インテック社のデータセンターを活用したディザスタリカバリ^{*2}のしくみも導入、BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）の側面からもITの強化を進めています。

グループ経営・グローバル経営を支えるのはITの技術、システムの共通基盤です。今後も、インテック社の協力を仰ぎながら、mcframeの有効活用を図り、経営戦略の遂行とビジョンの実現に貢献していきます。

（本稿の内容は2017年1月の取材によるものです）

^{*1} インテックは、B-EN-Gが主催するmcframeパートナーの表彰制度「mcframe Award 2016」で最高賞である「Partner of the Year」を受賞、過去通算11回目の同賞受賞となりました。

^{*2} 災害などによる被害からの回復措置、あるいは被害を最小限に抑えるためのしくみや体制。